

Société Contre L'état Live&Symposium Rhythmology

「世界に息づくリズム」の存在に触れ、自身の身体と共鳴させる音楽家・港大尋。彼が主宰する音楽集団「ソシエテ・コントル・レタ」は、常に「リズム」を意識しながら活動してきました。ここでいう「リズム」とは、音楽だけがもつものとは限りません。文学、とりわけ詩の世界や、美術、ダンスなど、様々な分野を交差する、ある理念として捉えたい、と考えています。本企画「リズムロジー」では、シンポジウムとライブによる二部構成により「リズム」についての探求を試みます。第一部のシンポジウムでは、演奏を交えながら、様々な「リズム」についてのディスカッション、また、新しい分野としての「リズムロジー」を提唱します。第二部のライブでは「ソシエテ・コントル・レタ」の新作を披露します。彼らが織り成す、既存の音楽ジャンルに属さない「音」と「リズム」にご期待下さい。

越境する **リズム**



京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター上演実験シリーズ vol.15
ソシエテ・コントル・レタ ライブ&シンポジウム
リズムの新しい可能性

リズムロジー

2004年10月2日(土) 17:00開場 17:30開演
料金：一般/前売2,500円・当日3,000円 学生・25歳以下/前売2,000円・当日2,500円 *学生証が年齢のわかるものを提示
前売取扱：京都芸術劇場チケットセンター/TEL:075-791-8240 (平日10:00-17:00)
電子チケットびあ/ <http://pia.jp/t> 0570-02-9966 (Pコード180-069) 0570-02-9999

京都芸術劇場 ● 春秋座

Symposium

人類学者
渡辺公三
東琢磨 音楽・文化批評家
港大尋
進行 八角聡仁 批評家

Société Contre L'état

Live

Guests

- 港 大尋
ピアノ/サクソス
Minato Ohiro
- 澤 和幸
ギター
Sawa Kazuyuki
- 岡 雄三
ベースギター
Oka Yuzo
- 清水達生
ドラムス/パーカッション
Shimizu Tatsuo
- ゲスト
萩 窓子
ヴォイス/パーカッション
Hagi Madoko

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター上演実験シリーズ vol.15
ソシエテ・コントロール・レタ ライブ&シンポジウム
リズムの新しい可能性

リズムモロジ

2004年10月2日(土)
17:00開場 17:30開演

料金：前売 一般 2,500円 学生・25歳以下 2,000円
当日 一般 3,000円 学生・25歳以下 2,500円
*学生証が年齢のわかるものを提示

前売取扱：京都芸術劇場チケットセンター / TEL: 075-791-8240
(平日10:00-17:00)
電子チケットぴあ / <http://pia.jp/t/0570-02-9999>
0570-02-9966 (Pコード180-069)

二部構成

Symposium [シンポジウム] 17:30

渡辺公三(人類学者) / 東琢磨(音楽・文化批評家) / 港大尋
進行：八角聡仁(批評家)

Live [ライブ] 19:00

ソシエテ・コントロール・レタ
港大尋(サクソフーン・ピアノ) / 澤和幸(ギター)
岡雄三(ベースギター) / 清水達生(ドラムス)
ゲスト：萩窓子(ヴォイス・パーカッション)

企画 / 港大尋

アクセス

●JR「京都」駅・京阪「三条」駅・阪急「河原町」駅から
→京都市バス5番「岩倉」行き乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車(京都駅から約50分)

●市営地下鉄「丸太町」・「北大路」駅から
→京都市バス204循環に乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)

●京阪電鉄「出町柳」駅から
→叡山電鉄に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩10分。
→タクシーで10分

※駐車場はございません。

京都芸術劇場●春秋座

主催・問合せ / 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター Kyoto Performing Arts Center
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
tel:075-791-8240 fax:075-791-9438
e-mail: info@k-pac.org URL <http://www.k-pac.org/>



Société Contre L'etat Live&Symposium Rhythmology

●ソシエテ・コントロール・レタ(バンドの由来について)

ソシエテ・コントロール・レタとは、もともと、フランスの人類学者であるピエール・クラストルが著した本の書名だ。日本では「国家に抗する社会」として翻訳・出版されている書物。南米のインディオに関する調査を書いたものである。国家を形作ってしまうような権力の在り方を避け、それでも如何にして社会を成り立たせるか、というインディアンたちの「野生の思考」を浮き彫りにした。ただ、よく誤解されるのだが、バンド名の意味合いとしては、「国家に抗する」というよりは「国家をもたないようにする社会」の方が適当である。グループとしてのソシエテは、ひとくちに言って、多様なリズムの実験場である。その素材は時に詩であり、数学であり、美術であり、ダンスでもある。そして、様々な地域に聞かれるリズムの息使いに耳を開いて、発見し、驚いていた。世界に息づくリズムは、底知れないほどに豊かである。そう、リズムは所有され得ない。インディアンたちが土地を所有しようとしないのと同じように。土地はヒトのものであるのではなく、ヒトが土地に属するものだと彼らは言う。リズムとはヒトが属するものなのだ、と言い換えてみることは果たして可能だろうか。およそヒトの世は迷宮の森だ。どこを分け入っても、行くあてもなければ、地図もない。にしても、樹々たちは風のそよぎを受けながら、ざわめいているだろう。葉は葉とずれ、軋みあい、それでもリズムを分有しようとしているだろう。そのような思いを込めて、このグループをソシエテ・コントロール・レタとした。

港大尋

*ソシエテ・コントロール・レタ公式HPにてCD視聴可。 <http://webclub.kcom.ne.jp/ma/tatsuo>

Profiles

港 大尋(ピアノ・サクソフーン) Minato Ohno / バンド、「ソシエテ・コントロール・レタ」を率いて、演奏・作曲、詩人とのコラボレーションなど、幅広く活動する。アマラ・カマラとのコラボレーション、豊島重之主宰のモレクチャー・シアターへの参加。オーボエの茂木大輔のための作・編曲、マリンバの通崎睦美のための作・編曲、演奏などの活動。CDにソシエテの1st「ありったけのダイナミクス」、「届くことのない2通の手紙」(マリンバ作品集)、林光作品を中心に収めた、竹田恵子との「ギョーザの夢」など。また、小中学校やろう学校などでのワークショップ形式のライブ活動を積極的に行う。最新作CDに「ソシエテ with 金時鐘」。

澤 和幸(ギター) Sawa Kazuyuki / 1965年生まれ。79年頃からバンド活動を開始。多摩美術大学卒業後は、音楽専門誌「ジャズライフ」の編集部にて在籍しながら、ブラック・ミュージックやアバンギャルド系のバンドで活動し、自己の音楽を追求。浅川マキのステージや、抽象画家トム・レイリスとのセッションに参加。現在は、荒巻茂生(b)の「ARAMAKI BAND」他で活動中。

岡 雄三(ベースギター) Oka Yuzo / 1966年生まれ。レコーディングワークを中心に、ライブハウスでのセッション、CRYSTAL KAYなどのツアーサポートで活動中。現在、元Magoo Swimの野戸久嗣と共に新バンドを準備中。

清水達生(ドラムス・パーカッション) Shimizu Tatsuo / 1967年生まれ。上京後、古澤良治郎に師事。ジャズ、R&B、様々なワールド・ミュージックの活動に参加。99年よりシイズ音楽院にて山元彰子にピアノを師事。2000年「TATSUO BAND」結成。01年、麻倉未稀、庄野真代とのステージに参加。

萩 窓子(ヴォイス・パーカッション) Hagi Madoko / 桐朋学園大学短期大学部演劇科卒業。1987年より95年まで「時々自動」に出演。音楽も担当する。シアター・コクーンでの「夏の夜の夢」「三文オペラ」に出演。オペラシアター・こんにやく座に打楽器奏者として出演。加藤直演出「コピュ」の音楽を担当するなど、演技、演奏、作曲で活動を展開。2003年3月、マヤコフスキー原作、加藤直構成・演出の「ミステリヤ・ブッフ」に出演。最近の活動では2003年11月、世田谷芸術文化財団とイギリスのロイヤル・ナショナル・シアター共同制作の観客参加型作品「うっかり・ちょっと・きのこ島」に作曲、出演。

渡辺公三(人類学者) Watanabe Kozo / 1949年生まれ。96年「レヴィ=ストロース=構造」(講談社、03年再刊)、03年「司法的同一性の誕生」(言叢社)他。立命館大学院・先端総合学術研究科教授。

物心つくころ、次々に植民地が独立する「アフリカの年」。60年安保の騒乱とアフリカの動乱は、同じくらい遠いと同時に同じくらい現実感があった。人類学的視点からアフリカ研究を始めたとき、西欧で生まれた人権の観念は、その西欧が暴力的に支配したアフリカにどこまで通用するのかわからない疑問を抱えていた。今は西欧の思想がなぜ人類学を生み出したか、アメリカ(人類学)はインディアンの人々に何を負っているのか、に関心が向いている。

東琢磨(音楽・文化批評家) Higashi Takuma / 1964年生まれ。(株)ディスクユニオン勤務、季刊「アンボス・ムンドス」編集長などを経てフリーランスに。著書に『ダンスが先? 音楽が先?』(日時:10月27日(水) 19:30 会場:京都芸術センター TEL/075-213-1000)、『インパクト出版社』。共編書に「国境を揺さぶるロックン・ロール」(ブルース・インターアクションズ)や「複数の沖縄」(人文書院)ほか多数。東京外国語大学非常勤講師。

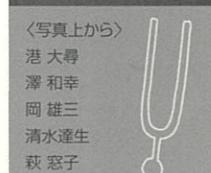
八角聡仁(批評家) Yasumi Akihito / 1963年生まれ。90年よりフリーランスの著述家として活動。文学、演劇、ダンス、映画、写真などについて広く執筆する。編著に「荒木経惟の写真術」(河出書房新社)、「現代写真のリアリティ」(角川書店)など。京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科助教授。

港大尋 in 京都

文学、詩、美術、ダンス——様々なジャンルにおける「リズム」を抽出し、新しい分野としての「リズム(リズムモロジ)」をキーワードに活動する港大尋。2004年秋〜冬に、音楽の演奏だけではなくダンサーとの共演活動を京都で繰り広げます。

●京都のルーエースミーティング4「ダンスが先? 音楽が先?」日時:10月27日(水) 19:30 会場:京都芸術センター TEL/075-213-1000
作曲・出演:港大尋 振付・出演:TEN(ダンス) ※ほか詳細はHP (<http://www.kac.or.jp/>) をご覧ください。

●「たまたまむつみ(仮)」日時:12月3日(金) 時間未定 会場:アートコンプレックス1928 TEL/075-254-6520
企画・出演:港大尋 出演:通崎睦美(マリンバ) 山田珠美(ダンス) 作曲(新作):野田雅巳 ※ダンスと音楽の切り離せない関係を探る。



〈写真上から〉

港大尋

澤和幸

岡雄三

清水達生

萩窓子